

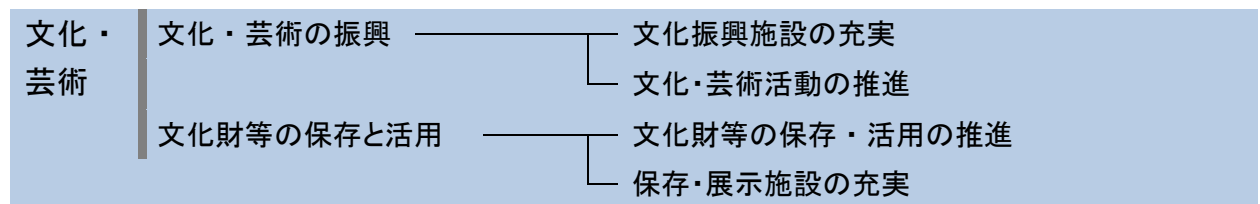
第5節 文化・芸術



現況と課題

- ◆ 市内では、多くの文化団体やサークルが、市民会館などを拠点として活発な文化活動を行っており、市はそれらの団体に補助金を交付することにより、地域に根ざした文化の振興を図っています。近年、文化芸術に関わる若年層の減少や指導者の高齢化が見られ、将来の文化芸術の振興を担う人材の育成が必要です。
- ◆ 市民の文化芸術活動の発表の場として富士吉田市文化祭を開催し、文化功労者や公募展における各受賞者の表彰を行うとともに、各種団体による文化祭参加事業への参加を呼びかけていますが、今後もさらに文化芸術の振興を図る必要があります。また、各自治会で開催する文化祭への運営費の補助や巡回視察の実施により、市民の文化芸術への関心と理解を深めています。
- ◆ 市内には世界文化遺産富士山の構成資産も含め、国・県・市の指定文化財が数多くあります。これは他地域と比較しても歴史文化的遺産が豊富に残されてきているものです。2022（令和4）年3月には「吉田口の信仰用具」4,039点が重要文化財に指定されました。市内全域には指定文化財以外にも歴史文化的価値のある文化財が数多く残されており、これらを長期的な視点で保存や活用等に生かしていくことが今後のまちづくりの根幹を支えていくものと考えます。
- ◆ 市では、文化財の保存修理、無形民俗文化財保持団体への活動援助、文化財保護の啓発、開発事業に伴う発掘調査、埋蔵文化財包蔵地の照会、文化財指定にかかる調査等を行っています。これらに携わる文化財の専門知識及び経験を持つ人材育成を図り、2019（平成31）年策定の文化財保存活用地域計画を踏まえ、地域資源としても貴重な文化財の保存、活用に向けた取組を継続して進めていきます。
- ◆ 博物館は、2015（平成27）年4月のリニューアル後、企画展や講座、ワークショップを開催するなどにより入館者が増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により減少しています。今後は整備された富士の杜・巡礼の郷公園や富士山レーダードーム館、道の駅とも連携を深めるなかで、新しい映像展示を導入するなど積極的な広報活動を展開し、減少した入館者の回復及び更なる利用者の増加を目指していきます。また、重要文化財・富士山世界遺産構成資産である附属施設「旧外川家住宅」の管理運営を行うとともに、後世にわたってこの貴重な御師住宅を伝えていくために耐震補強の措置を講じていきます。

施策の体系



(1) 文化・芸術の振興

①文化振興施設の充実

歴史的・文化的・自然的に貴重な資源を有する博物館エリアの機能を向上することにより、世界文化遺産である富士山の価値を高め、さらに後世に継承するため、「富士の杜・巡礼の郷公園」として博物館エリアの整備を進めます。

②文化・芸術活動の推進

市内の各文化芸術サークルや自治会文化部などへの活動支援を引き続き行うとともに、文化祭公募展や生涯学習フェスタなど日ごろの活動の成果を発表する機会の提供や内容の充実により、文化芸術の振興を図ります。また、本市の文化芸術活動の母体となる富士吉田市文化協会と連携し、将来の文化芸術の振興を担う若年層の文化活動への支援に努めます。さらに、本市の文化芸術活動の拠点となるふじさんホール及び市民会館では、指定管理者制度を活用しながら、さらに質の高い文化芸術公演などを開催し、市民の文化レベルの向上に努めます。

(2) 文化財等の保存と活用

①文化財等の保存・活用の推進

指定文化財の保存活動への財政支援や埋蔵文化財の調査及び指導等に積極的に取り組むとともに富士山信仰をはじめとした本市の歴史文化的財産の保存活用を図るため文化財専門職の確保等、体制整備に努めます。併せて、本市における御師料理等の食文化や学術的に重要な市内全域の文化財について、長期的な視点に立った保存計画や整備活用を進めるための方針を定めていきます。

②保存・展示施設の充実

本市にとって歴史的価値の高い資料の適切な保存管理と活用を図ります。また、展示設備やコンテンツの更新を計画的に行なうこと、企画展や講座、ワークショップなど魅力ある企画で幅広い層に利用していただける施設を目指します。そして世界文化遺産である富士山の歴史と文化を後世に伝えていく重要な役割を担う博物館施設や附属施設の旧宮下家住宅や旧武藤家住宅を中心に、道の駅、富士山レーダードーム館、富士の杜・巡礼の郷公園と連携を図りながら運営を行い、来館者のさらなる集客を図ります。

●ふじさんホール(富士五湖文化センター)・富士吉田市民会館

